

## 「時間を感じろ！」

2026・6・17 重枝 一郎

ー 昨年「校長講話」で書いた内容であるが。

私たち教師は、いろんな機会を生かし、生徒と積極的に関わることが大切になる。そのためには、生徒から声をかけられやすい雰囲気をもつことは大事である。また一方、積極的に声をかけていくことも求められる。もちろんやみくもに声をかけるわけではない。ちょっとした変化を感じて、問題を抱えている生徒に対して声をかける。

私は、クラス等でいじめ問題を取り上げる時、いじめが起こってからではなく、先手的に、いじめがないような雰囲気の際に、「このクラスは、なぜいじめがないのか？」と問いかけ、話し合わせる。そして、最終的に「学習ルール」「生活ルール」「対人ルール」の3つのルールをみんなで契約する。これをやるのは、だいたい5月末から6月の間に行う。4月に契約した「クラスのルール・マナー」の再契約という位置付けになる。

同じような発想で、遅刻常習生徒には、「遅刻しなかった日」に面談をするようにしていた。通常、遅刻した日に呼び出し面談を行うが、だいたい「すみませんでした。気をつけます」で終わりがちである。生徒もどうせ怒られるから、早く済ませたい気持ちになる。そこで、遅刻しなかった日に、「なぜ遅刻しなかったのか？」という問いで、生徒と一緒に前日のことを振り返る。

私自身を振り返ると、時間感覚がある生徒と、時間感覚がない生徒に出会う。

時間感覚がある生徒に対しては、帰宅してからの行動計画を立てることができる。

ところが、時間感覚がない生徒は、「何時に寝た？」という質問に、「わからない」「うーん2時か3時」みたいな感じである。そんな生徒には、生活ノートを作り、「起きた時刻」と「寝た時刻」を記入させる。それを意識させるだけでも遅刻が改善されることがある。加えて、「夕食の時間」や「好きなことをした時間」を書かせるようにする。その生徒の家庭環境やその生徒が興味をもっていることの話の聞けることがある。雑談につながるのととても効果はある（校長研修だより109「それはズバリ雑談」）。

このことからわかるように、時間感覚がある・なしで、支援のやり方も変わる。

私は、それでも時間感覚を持つことはとても重要と考えていたので、【時間を感じろ！】という言葉を経験した場面をいろいろ発信していた。すると生徒・教師は、自分の自分たちの意識向上にこの言葉を活用するようになった。

この【時間を感じろ！】という言葉は、生徒・教師共に、いろいろな受け止めがあった。例えば・・・

- ◆ 部活動の練習で、メニューを切り替えて、次の準備に取りかかる時、みんなで、【時間を感じろ！】と声を掛け合いながらキビキビと取りかかった。
- ◆ 小さい頃からピアノをしてきた生徒が、その積み重ねを自信にするために、【時間を感じろ！】と自分に言い聞かせていた。
- ◆ 修学旅行のタイムスケジュールを守る際は、学年全員の合言葉が【時間を感じろ！】になっていた。
- ◆ 3年生になって、受験に向かう気持ちを高めるために、【時間を感じろ！】という言葉が学年主任が廊下に貼っていた。
- ◆ サッカー部の生徒が、【時間を感じろ！】という言葉を意識して練習したら、一つ一つのプレースピードが上がったと言っていた。

このように、モチベーションアップに活用したり、これまでの自分を振り返ったり、集団のルール遵守の掛け声にしたりしていた。

先生たちも【時間を感じろ！】という言葉を使ってみないか。  
働き方改革につながるかも（笑）